月報
岡崎の教育

平成22年6月1日
6月号
発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想 …… 1
八丁味噌協同組合理事長
早川久右衛門氏
この人に聞く …… 2
一級心理カウンセラー
アートセラピスト
宮澤会美香氏
羅針盤 …… 2
竜海中校長　野々山宏司
ふれあい …… 3
城北中　廣瀬　浩司
特集 …… 4
郷土の伝統芸能を受け継ぐ
～学校・地域での取組～
お知らせ …… 6
フォト・ヒストリー …… 8
運動場での食糧増産
（昭和17年）
この本を …… 8

教育随想

岡崎で育てていただいた八丁味噌の役割

八丁味噌協同組合理事長
早川久右衛門　氏

家康公は、桶狭間の合戦後、人質生活から解放され、岡崎に帰郷。その後、幾多の苦難を乗り越えて、天下人への道を歩みました。

当家の伝承によると、先祖の新六郎勝久は今川義元公の家臣で、義元公の討たれたあとは舳越村に逃れ、号を久右衛門と改め、帰農。くしくも家康公と同時期に第二の人生をスタートさせることになりました。

その子孫が、東海道と矢作川の交わる交通の要所であった八丁村に移住し、味噌屋（カクキュー）を創業。皆様のお陰で今日に至ります。三百六十五年間伝統の製法を頑なに守り、八丁味噌の味を伝え続けます。匠の技を絶やさぬようにと、重石の石は今も手積みです。同じ八丁村の、東海道を挟んで向かい側に㈱八丁味噌さんがあります。この二社で八丁味噌を現在まで守ってきました。

当家は幸いなことに戦災を免れました。本社事務所と大蔵（資料館）が、平成八年に国の登録文化財になり、毎年多くの見学者が訪れます。これまで、岡崎藩・商工会議所・学校・銀行・鉄道等に深くかかわっていたため、その関係史料が残っております。また、販売経路が全国に及んでいたため、著名人や各地の旅館からの注文書等も残っております。

このような多くの史料から、当時の先人たちの足跡と時代を垣間見ることができます。しかし、旧岡崎市立図書館に収蔵されていた一部の貴重な資料が戦災で失われ、とても残念であります。

当家に残された史料を、岡崎市民の共通の財産ととらえ、今後の郷土史研究に少しでもお役に立てれば幸いに思います。それが、家康公生誕の岡崎の地で、皆様方に育てていただいた八丁味噌二社の役割かと思います。

（はやかわきゅうえもん）

ふるさとシリーズ

この人に聞く

生命（いのち）の大切さを伝えたい

一級心理カウンセラー
アートセラピスト
宮澤会美香　氏

昨年九月、小豆坂小学校で「生命のメッセージ展」が開催された。開閉会式の際に歌われた『風の中のあなた』は、宮澤さん自身の作詞・作曲であり、多くの参加者に生命のきずなを強く印象付けた。

現在、宮澤さんは、心理カウンセラー・アートセラピストの仕事の傍ら、生命の大切さを訴える講演を、全国各地で行い、活躍されている。

宮澤さんがこの仕事を始めるきっかけになったのは、十二年前に当時三歳であった長女をインフルエンザ脳症で亡くされたことにある。

「第一子でしたし、この時代、親より先に子が死んでしまうというのは本当に受け入れ難く、自分だけ別の世界にとり残されてしまったような感覚でした。」

その後、お子様の死について、自身を責め続ける日々が一年ほど続いたそうだ。そんな中、ラジオからの一曲のポップソングに心が動かされた。そのときに作詞・作曲したのが『風の中のあなた』である。

「自分と同じような立場にある方に聞いてもらい、共感してもらったり、ほっとしてもらったりできればと思い作りました。あのころは、人のためになることをしていないと、生きていてはいけないというような自責の念みたいなものを感じていたころでした。」

そんな思いから、「インフルエンザ脳症の会」の活動に四年間没頭した。しかし、その無理がたたり、ご自身が次から次へと病にかかり、生命の危機に陥ってしまった。その危機を乗り越えるきっかけが、心理学にあったそうだ。

「心理学を学んだことで、自分は『生かされているんだ』という、いちばん大切なことに気付かされました。そして、今度は、子供たちに『生きていることは当たり前ではないこと、与えられた命を大切にしていくこと』を伝えることができればと思うようになりました。」

宮澤さんが出版された著書『あなたの心を抱きしめたい』は、子供たちにも簡単に読める易しい内容でありながら、人生や生命についての熱いメッセージが伝わってくる。

「今の時代の子供たちは、子供たち同士でも気を遣っていて、壊れた人間関係を修復することが難しい。だからこそ、親がもっと手を差し伸べていかないといけません。」

宮澤さんご自身も、中学校一年生の二女とのコミュニケーションを欠かさない。

「子供たちは、元気で幸せであってほしいですね。いろいろな体験をいっぱいして、命を輝かせてほしいです。その子の存在そのものが、すばらしいことですし、何より幸せなことなのですから。」

力強く、それでいてにこやかに話される宮澤さん。宮澤さんのメッセージを受け取る人の輪は、これからもますます広がっていくだろう。

（氏　名　みやざわ　えみか
生年月日　昭和四十三年十二月十一日
住　所　岡崎市庄司田三丁目）

羅針盤

龍馬語録

竜海中　校長
野々山宏司

NHK大河ドラマ『龍馬伝』が人気である。龍馬役の福山人気なのか、混沌（とん）とした時代を切り開きたいという国民の願いのせいか。今後の展開が楽しみである。

書店をのぞくと龍馬に関する本の特設コーナーが出来ている。多くの先生方は、司馬遼太郎の『竜馬がゆく』を読んだことだろう。先日、龍馬語録が特集してある一冊を買い求めた。彼が残したであろう言葉の数々に龍馬の人となりを感じるし、我々が生きる指針ともなるいい言葉が多い。

教科指導や学級経営をいかに充実させるかなど、私たち教師は日々研修が義務づけられている。授業力や指導力等高めるべき内容は多いが、大切なのは教師力、とりわけ人間力

ふれあい

二週間のドラマ

城北中　廣瀬　浩司

「二週間でドラマを作らないか。」

必死で考え、切り出した言葉がこれだった。

「変なことを言うけど、真剣に聞いてくれ。実は、合唱曲を替えたいと思うんだ。」

合唱コンクール二週間前の朝の会。前代未聞の私の提案に、生徒たちはまさに「目が点」の状態だった。

一瞬凍りついた教室中に、

「面白そう。やってみたい。」

A子の声が響いた。

一学期最後の音楽の授業で、二年一組の合唱曲は『道』という歌に決定した。本番に向けて、生徒間で温度差ができるわけでもなく、何となく最優秀賞を取ろうという目標に向かって歌う日が続いた。歌は徐々に完成に近づいているが、生徒の気持ちに熱が入らない。思い切って曲を変えようか、このままでいこうか、迷っていた。

そんなとき、A子が生活ノートに次のように書いてきた。

「もう曲が完成してしまったような気がします。みんなそれなりに歌ってくれるのだけど、なんかおもしろくないというか。」

その日から、A子と私の大作戦が始まった。全員の心を揺さぶり、もう一度やる気を奮い起こさせるために、思い切って歌の変更をみんなに訴えることを決断できた。A子には、みんなの中心になって、変更する候補曲を選ぶことを頼んだ。

「みんなが『自分らしく』を歌いたいって。歌詞にもあるけど、今は毎日をただ過ごしているだけで、合唱コンクールでは、一組らしくもっと元気よく歌いたい。」

そう話しかけてくるA子の目は再び輝きを取り戻していた。「ドラマを作る」という魔法の言葉に感化され、生徒たちのエンジンもかかり始めた。

そんな矢先、思いもよらぬ事態が発生した。新型インフルエンザによる学級閉鎖だった。クラスの半分の生徒に、その症状が出た。間に合うのか、曲を戻すべきか、だれもいない教室で一人悩んだ。そんなとき、A子の「一組らしく」の言葉が頭に浮かんだ。やるしかない。

新しい曲をCDに録音し、三十七名全員の家に届けた。伴奏者のB子は、熱を出しながらも、ピアノを弾いてくれた。歌うことがあまり好きでないC男も、「先生、ありがとう。早く覚えるよ」と言ってくれた。

本番まで一週間しか時間がない。だからこそ、生徒たちは一回の練習に気持ちを込めて歌った。歌うごとに曲がよくなっていくのをみんなが実感できた。A子は必死になって練習を呼びかけ、みんなはそれに応えた。そんな生徒たちと同じ空間で過ごせる幸せを感じた。

「先生が提案したドラマを完結させる瞬間がやってきました」という学級紹介で始まった本番。結果は優秀賞であったが、最高の歌声だった。

帰りの時間、昇降口で、

「二週間のドラマ作りは、最高に楽しかった。」

こう言ったA子の笑顔が忘れられないものとなった。

ではないだろうか。未来を担う子供たちの成長を支える教師が、人としての魅力がなければ子供はついてこない。

龍馬語録の中で、私の好きな言葉を紹介する。まず第一に「日本を今一度洗濯いたし申し候」を挙げたい。なんと視野が広いのだろう。宇宙から地球を、日本を見ているようだ。日本という国を手づかみにし、洗い清め刷新したいという大きな志を感じる。もう一つ。「丸くとも　一かどあれや人心　あまりまろきは　ころびやすきぞ」これもいい。龍馬が剣術を学んだ日根野道場「小栗流」の書物に似た歌が存在するようだが、「柔」＝「丸」だけではだめ、「剛」＝「角」も持ち合わせろという意味だろう。

我々教師も、目の前の子供の学力、心をどう育てるのか、いかに幸せな人生を歩ませるのか、教師として大きなポリシーを持ちたい。不易と流行という言葉があるが、子供の前に立つとき、流行やその場の雰囲気に流されず、確固たる信念を持っていたい。

「俺がやらなければ、誰がこの子を救うのか」「岡崎の教育の先達を私が務める」と言える気概を持ち続け、日々過ごしたいものである。

郷土の伝統芸能を受け継ぐ

～学校・地域での取組～

▲ 東京浅草の「時代祭」で三河万歳の披露（細川小郷土芸能クラブ）

昔から、人々は豊作や幸せ、加護への祈り、感謝を、自然の神々や先祖の霊にささげるために祭りを行い、芸能を奉じてきた。

しかし、社会や生活様式の変化により、郷土の伝統芸能の保存、継承が危ぶまれている。そんな折、市内には郷土の伝統芸能を学ぶ取組を進めている小中学校や地域がある。

細川小学校や連尺小学校では、クラブ活動の時間に地域の指導者を招いて郷土の伝統芸能を学び、学習発表会や敬老会で、その成果を披露している。さらに、細川小学校の郷土芸能クラブは、浅草の「時代祭」に招かれて披露したり、連尺小学校の伝承文化クラブは、老人ホームの慰問公演をしたりするなど、活動の場を広げている。また、六ツ美南部小学校、六ツ美北部小学校、豊富小学校、形埜小学校は、学校行事の中で、郷土に伝わる民謡や踊りなどを披露し、地域への愛着を深めている。新香山中学校では、総合的な学習の時間にチャラボコを学ぶ機会を設けている。

地域、町内に目を向けると、和太鼓、神楽などを習い、祭りで重要な一役を担っている児童生徒もいる。岩津学区の「天神太鼓」、形埜小学校の「日近太鼓」などは、町内で練習した児童生徒が地域の行事で演奏している。

こうした芸能の継承には、地域で「保存会」などの活動をしている方々が深くかかわっている。

古くから守り育てられてきた芸能は、地域の人々がその担い手となって、脈々と受け継がれてきた。子供たちが、郷土に誇りと愛着をもち、地域の歴史や人々の思いとともに、伝統芸能を次世代に伝える継承者に育つことを願う。

地域での取組

◀地域の祭りで「天神神楽」の演奏（岩津学区）

◀地域で練習した「日近太鼓」を学芸会で披露（形埜小）

学校行事の中で

運動会で地域の方と一緒に踊る児童

▲「額田音頭」（豊富小）　▼「六ツ美音頭」（六ツ美北部小）

▲「悠紀斎田（ゆうきさいでん）お田植え踊り」（六ツ美南部小）

六月一日は、お田植祭でした。歌とおどりに合わせて苗が植えられていきます。

私は苗を渡す役でしたが、植える人にリズムよく渡すのは大変でした。六ツ美の田が献上米をつくる斎田として選ばれていたことは、すばらしいことだと思いました。このお祭りとともに、これからも六ツ美の田や自然を大切に守っていきたいと思います。

（旧六年女子）

活動の広がり

▲「岡崎市子ども伝統芸能祭」で五万石太鼓の演奏　（連尺小伝承文化クラブ）

岡崎の四季を、勇壮な節回しで表現した連尺五万石太鼓。直径二メートルもの大太鼓が奏でる重厚な音は、お腹に響くほどで、太鼓を打つ子供たちも気合が入ります。

毎年、学芸会や学区敬老会、「岡崎市子ども伝統芸能祭」で披露するとともに、学区の老人施設を訪ね、訪問演奏をしています。連尺小学校の子供たちに代々受け継がれ、学区の方々にもその演奏を楽しみにしていただいています。

（伝承文化クラブ担当者）

総合的な学習の時間

▲ 外部講師を招いてチャラボコの練習（新香山中）

『達人に学ぶ』（十二時間完了）

様々な道の達人（地域の指導者）を招き、その技を教えていただく学習の一講座。「しぐれ」「くずし」の二曲を練習し、体育館で発表した。

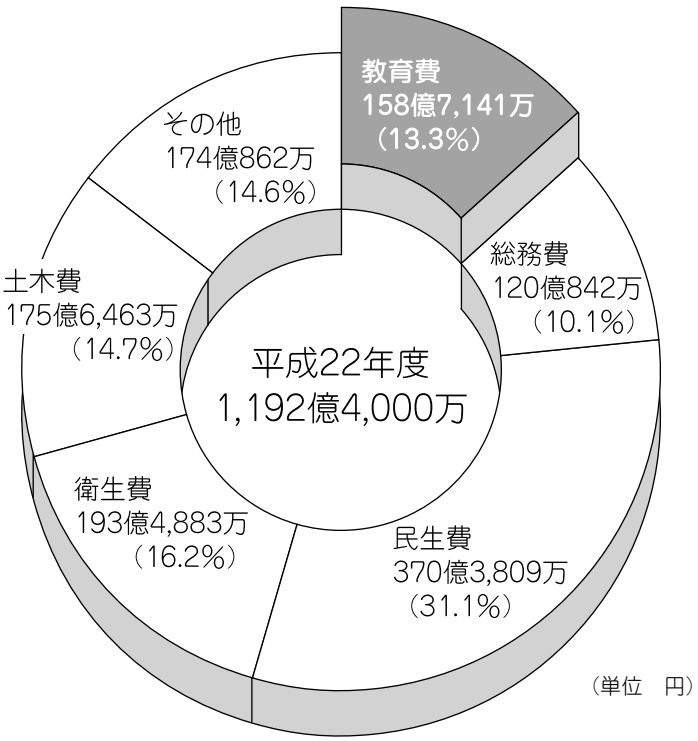
達人からチャラボコ太鼓を教えていただき、充実した時間になりました。短い時間で二曲演奏することができるようになるのは大変だったけれど楽しかったです。私は小学校でも習ったことがあるので、友達に教えることができました。これからも学区のチャラボコに親しんでいきたいです。

（旧中一女子）

平成二十二年度 岡崎市の教育予算

経済危機を乗り越え 明日への希望をつなぐ

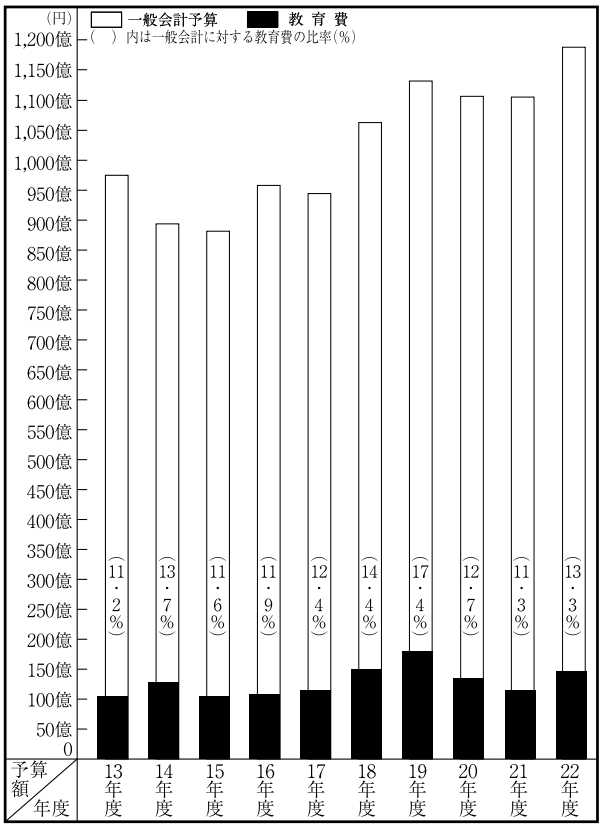
〈一般会計予算〉



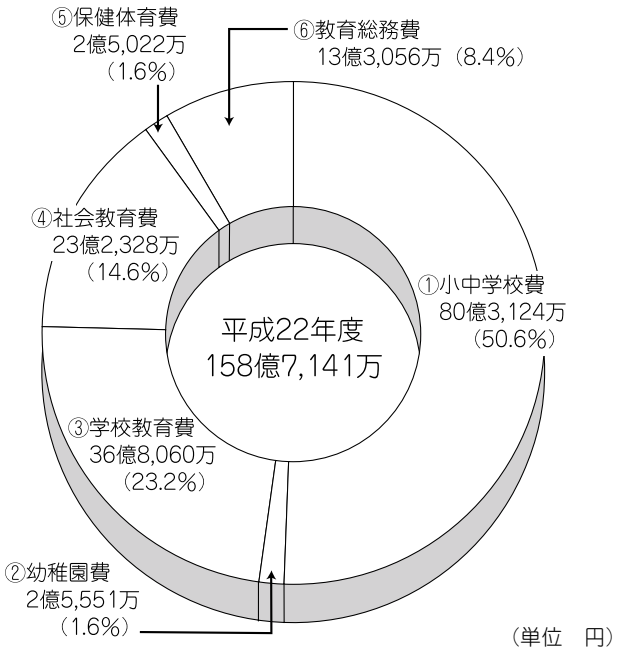
▲ 額田中プール改修

◀ 山中小屋内運動場天井改修

◀ 細川小トイレ改修



〈教育費の内訳〉



（単位　円）

◆平成22年度のあらまし◆

①小中学校費　校舎改築（豊富小）
校舎増築（男川小・矢作南小）
便所改修（六ツ美北部小・矢作中）
プール改修（上地小・六ツ美北部小・城北中）
下水処理切替（岩津小・六ツ美南部小）
テレビ共聴システム改修（緑丘小・岡崎小）
校内LAN整備（根石小・男川小・六名小・三島小・広幡小・愛宕小・奥殿小・細川小・竜海中・葵中・矢作北中・新香山中）
図書室空調設備（大門小・六ツ美北部小・六ツ美西部小）
保健室空調設備（形埜小・夏山小・葵中・東海中・六ツ美中）
屋内運動場天井改修（常磐小・細川小・大門小・六ツ美中部小・城南小）
運動施設整備（愛宕小）

②幼稚園費　幼稚園管理運営

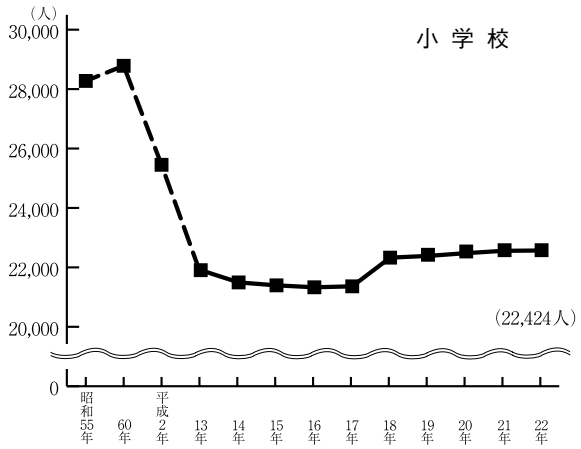
③学校教育費　行事開催事業委託及び指導研修
教育の振興、研究助成
児童生徒の健康保持
小中学校各種スポーツ大会開催
健全育成推進
小学校英語指導補助者派遣
（仮）総合教育センター設立
給食センター施設整備

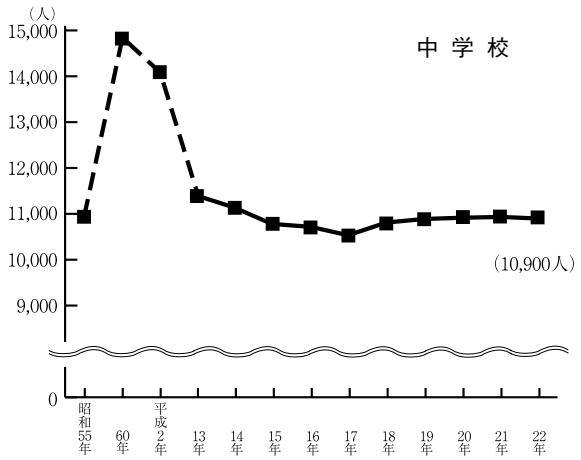
④社会教育費　岡崎市民芸術文化行事開催事業
生涯学習推進事業
青少年健全育成推進事業
文化財整備活用事業
視聴覚ライブラリー管理運営
少年自然の家管理運営及び施設整備
図書館交流プラザ管理運営
太陽の城管理運営

⑤保健体育費　スポーツ振興事業
スポーツ施設整備事業

⑥教育総務費　私立幼稚園就園奨励費補助金
奨学資金支給・貸付事業

◆ 児童・生徒数の推移（数字は毎年5月1日現在）





お知らせ

● 教育最新情報

◆教育相談センター
―不登校・特別支援教育・生徒指導に関する学校支援―

教育相談センターは、「教育相談―そよかぜ相談室―」「適応指導教室―ハートピア岡崎―」「生徒指導・要保護児童対応―学校相談員―」を中心に活動している。

・そよかぜ相談

教育相談センターで、不登校・特別支援教育・就学にかかわる相談を行う。相談員、臨床心理士、登校支援員が担当する。電話での申し込みのあと相談を行う。

相談センター一階

電話七一―三二〇一

※臨床心理士によるカウンセリングも行う。場所は相談センター三階。

・登校支援員

そよかぜ相談のうち、主に不登校児童生徒、その保護者、教員を対象とし、相談活動を行う。相談センターにおける相談、必要と認めた場合の学校での相談及び適応指導、派遣先学校での該当児童生徒に対する家庭訪問による登校支援を行う。

・ハートピア岡崎

ハートピア指導員が、不登校児童生徒の適応指導、学校復帰支援を中心に活動する。適応指導、学習指導、相談（保護者・本人・教員）、通所生在籍校訪問での学校支援復帰、通所生の家庭訪問等での引きこもり対策を行う。登校支援員と連携して活動する。

相談センター二階

電話七一―三二〇七

・学校相談員

生徒指導担当主事による配置校等の計画によって活動する。学校生活に適応が難しい児童生徒と、その保護者に対する相談活動を行い、小中学校の生徒指導体制をより充実することを目的として配置する。相談員は、教育委員会が指定した学校及び緊急対応のため教育研究所に配置する。

※配置期間

一学期

五月十日～七月十六日

二学期

九月一日～十二月二十二日

三学期

一月七日～三月十一日

一学期は、南中学校を拠点として配置する。配置校以外の学校が活用を希望する場合は、担当まで連絡する。

電話二三―六四三九

・その他

教育相談センターでは、生徒指導（問題行動・不登校）、特別支援の教科・領域指導員と連携して活動する。また、ボランティアの「学生支援員」「メンタルサポーター」「公的介助ボランティア」に協力いただく。

・相談センター住所・連絡先

岡崎市竜美北二丁目六番地一

電話七二―三四四七

◆教職員評価制度

今年度も昨年度同様に実施すると、愛知県教育委員会より通知があった。

・対象者は全正規教職員

・被評価者の記入は、自己申告・評価シートの被評価者記入欄すべて（自己評価・申告シートの表・裏の両面すべて）

・評価日は、平成二十三年二月一日

◆一学期の研究発表

一学期、六月に広幡小学校で研究発表会（自主）が行われる。研修の大切な機会となるよう積極的に参加し、学びを深めたい。

○広幡小学校（六月十六日）

研究主題は、「自ら追究し、確かに表現できる子の育成をめざして　～言語能力を培い、『書き表す』活動を工夫した授業の創造～」である。

学習課題などから気づいたことを書き表し、また自らの意見・考えとして他に伝える学習活動が中心内容となる。

自らの考えを確かにもち、話し合うことで、思考力・判断力・表現力を育成していくこともねらいである。これらの能力を高めることはこれからの大きな課題の一つであり私たちが学んでいきたい内容である。

当日は、全体会のあと、全学級で授業が公開され、教科別授業協議会が行われる。

特別支援初心者研修、岡崎市初任者研修も併せて行われる。

● 芸術鑑賞会

今年度も、感性を育む心の教育推進事業として、芸術鑑賞会を行う。参加対象は、小学校六年生全員である。

今年度も劇団「四季」の「こころの劇場」が岡崎市で招待公演される。作品は『エルコスの祈り』を予定している。

心を持つロボット、エルコスが主人公の物語である。舞

台は五十年後の未来。親や先生に見放され、夢や個性を奪われたユートピア学園にエルコスがやってくる。心を閉ざしてしまった生徒たち一人一人に、エルコスは優しく語りかける。

子供たちは徐々に忘れていた笑顔と夢を取り戻していくが、ただ一人ジョンはエルコスを受け入れることができなかった。エルコスの祈りは通じるのだろうか。

今年度も、子供たちに大きな感動を与えてくれることを期待している。

○日時
八月五日（木）・六日（金）
・午前の部　十時三十分～
・午後の部　十四時～
○場所　岡崎市民会館
○演題「エルコスの祈り」
○公演参加は学校ごとに指定する予定

●表　彰

◆第8回ジュニア打楽器アンサンブルコンクール全国大会（打楽器五重奏）
優秀賞　美川中　二年
石川絵梨　新田莉乃
福木麻由　尾崎海
一年　鈴木のどか

◆第46回全国児童才能開発コンテスト　※作文部門
全国連合小学校長会会長賞
大樹寺小二年　片桐麻衣
日本ＰＴＡ全国協議会会長賞
北野小四年　細野舞奈
竜美丘小五年　新宅萌花
学研賞
北野小三年　山崎裕汰

◆第18回全国漢字かるた大会百人一首　小学生の部
第三位　竜美丘小二年　加藤翔大

◆平成21年度実用英語技能検定全国優秀者表彰　オーストラリア大使賞
矢作中一年　加藤優理奈

◆第17回愛知県ヴォーカル・アンサンブルコンテスト
金賞　常磐中学校
六ツ美北中学校
矢作北中学校
※学年はすべて受賞時

●小中学校のようす

平成二十二年度岡崎市内の小中学校の概要がまとまった。五月一日現在の学校や学級数、児童生徒と教職員の数を表に示した。

一校当たりの児童・生徒数は昨年よりも少し増えた。一校当たりの学級数は小中ともに若干増えたが、一学級当たりの児童・生徒数は、昨年の平均、小学校二十八人、中学校三十二人より若干減った。

岡崎市内の児童生徒数の合計は、昨年よりも百八十六名増加した。三校の閉校があり、教職員数は十七名減となった。

教員補助者は昨年度より五名減の百六十五名、うち六名は理科の授業の補助者である。英語補助者は三名増の十八名、ＡＬＴは一名減である。

今年度から図書館支援員が十名配置された。

●学校・学級の規模（市内平均）

	小学校	中学校
1校当たり児童・生徒数	477人	573人
1校当たり学級数	18学級	19学級
1学級当たり児童・生徒数	26人	30人

●学年別児童・生徒数（人）

	小学校						中学校		
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年
男	1,829	1,967	1,889	1,914	1,933	1,992	1,872	1,858	1,871
女	1,728	1,783	1,856	1,853	1,826	1,834	1,777	1,787	1,735
計	3,577	3,750	3,745	3,767	3,759	3,826	3,649	3,645	3,606

●児童・生徒・教職員数

区分	学校数（校）	学級〈特別支援〉（学級）	児童・生徒（人）			校長・教頭・教諭（人）＊養護教諭・期限付講師を含む			栄養教諭・職員（人）	事務職員（人）	養護教諭（人）
			男	女	計	男	女	計	県	県	県
小学校	47	804〈 78〉	11,544	10,880	22,424	461	635	1,096	10	50	50
中学校	19	341〈 34〉	5,601	5,299	10,900	383	244	627	4	25	23
合　計	66	1145〈112〉	17,145	16,179	33,324	844	879	1,723	14	75	73

フォトヒストリー 岡崎の教育

運動場での食糧増産

（昭和17年）

写真提供：愛宕小学校

この写真は、昭和十七年、愛宕国民学校（現・愛宕小学校）の児童が運動場を耕して甘藷畑を作っている様子である。

戦争が長期化するにつれ、食糧不足が深刻になってきた。昭和十六年二月、文部省は、「青少年学徒食糧飼料等増産運動実施要領」の訓令を出し、その中でも児童は年間三十日以内、授業を廃して勤労作業を行うこととなった。

岡崎市内の国民学校では、児童が慣れぬ手で鍬をふるい、米、小麦、甘藷、馬鈴薯等を作った。さらに、どんぐり拾いやイナゴ捕りも行われ、捕れたイナゴは昼食にも出された。当時の児童は、小国民として食糧増産の重要な担い手だったのである。

・カット　矢作西小　梅村奈津子

オアシス

おおらかな人柄の宮澤さん。ゆっくり優しい口調で話される言葉からは、生命を大切に思う心の重みが、ずしりと伝わってくる。

「その子の存在そのものがすばらしいこと」。

取材で印象に残った言葉である。自分自身のことを好きになれる児童生徒を、我々は育てていかなくてはならないと感じた。

小学生のときに習った地域の芸能を中学生になっても続け、今は指導者としてかかわっている大学生がいる。こうした若い世代の存在が頼もしい。

毎年、「岡崎市子ども伝統芸能祭」が開催されている。地域の伝統芸能に親しみ、ふるさとの歴史、人、自然に愛着をもつ子を育てていきたい。

アジサイの花が咲く季節となった。アジサイは、一つ一つの小さな花が集まって、一つの大きな花の形を成している。

この時期は、多くの小学校で運動会が行われている。マスゲームは、その花形である。子供たち一人一人の輝く姿が集まり、一つの大きな美しい花の形を成している。アジサイに似ている。

住んでいる地域の水がおいしい。おいしい水を作るために、日夜、働いている人たちがいる。

先日、男川浄水場を見学した。水をきれいにする仕組みとともに、そこで働く人たちの思いにもふれることができた。これから、水がおいしい季節がやって来る。そのありがたみも味わわせたい。

この本を

＊教師の作法　指導　野口　芳宏
さくら社　￥1,700

＊心に響く小さな５つの物語　藤尾　秀昭
致知出版社　￥952

＊日本を創った思想家たち　鷲田小彌太
ＰＨＰ新書　￥950

＊老荘思想に学ぶ人間学　境野　勝悟
致知出版社　￥2,500

＊丁稚のすすめ　秋山　利照
幻冬舎　￥1,400

家具職人である筆者は，本物の職人を育てたいと，昔ながらの徒弟制度を取り入れ指導している。修業は厳しく，耐え続けていることが不思議なくらいである。しかし，親方にあたる著者の面倒見のよさは，それ以上といえる。躾から礼儀作法まで生活のすべてを教え，弟子の自立まで全責任をもつ。「人の成長に立ち会えるというのは，ぜいたくなこと」という著者から，教師として学ぶことが多い書である。

緑丘小　鳥居　弘子